

鬼瓦のルーツを尋ねて 韓国へ (23)

原州をベースキャンプに

前橋市 富山 弘毅

金在煥会長が用意してくれたホテルは原州（ウォンジュ）で唯一の5つ星で、会議場、ゴルフ場、プールなどを備え、最上階には日本食レストランも。トップクラスのこれらの施設を利用するチャンスはありませんでしたが、ここに5連泊することになります。江原道全体をにらみながら寺院や博物館を回るには、江原道の中心・原州を基地にするのが好都合でした。

いよいよ本格的に鬼探しをすることになった旅の2日目。金会長が運転する車に全美貞事務局長、尹永淑通訳が乗って、ホテルに来てくれました。

朝8時半でした。「アンニョンハセヨ」「チャル・ブッタッカムニダ（どうぞよろしくお願いします）」と最敬礼して通訳の隣に乗ると、車は高速道に入り、北へ約50 kmの隣町・洪川（ホンチョン）市の名刹・寿陀寺（スタサ）へ向かいました。

皮切りは^{ホンチョン}洪川の^{スタサ}寿陀寺

寿陀寺門前の商店街で車を降り、「100年の松」を見ながら清流を渡ると、林の向こうに大きな建物群が現われました。

まず典懐楼に入ると、この建物を通して正面に大寂光殿が見えてきます。この配置が深い意味を持つようです。

その大寂光殿の大棟の雁振瓦（がんばりがわら＝半円筒形の冠瓦）の真ん中あたりに新羅時代の青い瓦が2枚あり、韓国でここにしかない貴重な文化財だと教えられました（本稿では、モノクロ印刷のためお見せできないのが残念です）。

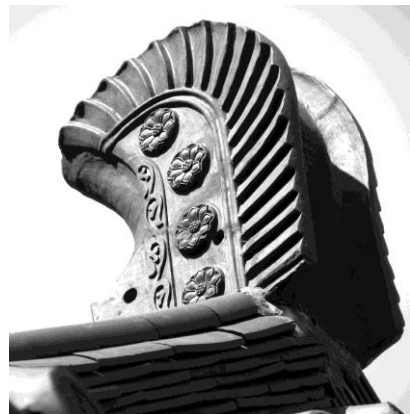
その奥の円通宝殿に鬼面瓦があり、以前出会った面相と似ているものの、あご髭の長いのが特徴でした。立派な鴟尾も載っていましたが、ピカピカの新品に見えました。



洪川・寿陀寺 円通宝殿



洪川・寿陀寺 円通宝殿 鬼面瓦



洪川・寿陀寺 円通宝殿 鴟尾

円通宝殿の外壁には、鮮やかな色彩の龍の絵がいくつも描かれていました。

金会長は仏教徒らしく、仏壇の前でいねいに礼拝をするので、正式な礼拝の仕方を教えてもらいました。起立して合掌、礼拝ののち、座って両腕を前につき、額を床

すれすれに下げ、掌を上に向けて祈り、立ち上がる。それを3回くりかえすのです。

トッケビとの出会い

寿陀寺の梵鐘楼の隅瓦（望瓦）のデザインは「鬼ではなくトッケビ（化け物）」と説明されました。気味悪く恐ろしい顔かたちなのにどこか茶目っ気を感じさせる怪物です。これこそ「トッケビ」なるものの真骨頂なのかもしれないと、ワクワクする思いでカメラに収めました。



洪川・寿陀寺 梵鐘楼



洪川・寿陀寺 梵鐘楼 隅瓦 トッケビ

「トッケビ」とは？

「鬼」を日韓辞典で引くと「クィシン(鬼神)」とてますが、翻訳すると「トッケビ」。「トッケビ」を辞典で引くと「小鬼、お化け、鬼」です。

トッケビは朝鮮の昔話に登場するユーモラスでグロテスクな妖怪で、ちょっと意地悪だが悪意はなく、憎めないいたずら者

です。人間を化かすつもりが化かされたりする、日本の昔話の狐や狸、河童や天狗の話と共通点があります。鬼神とは異なり、死者の霊ではなく、むしろ命のないもの＝捨てられたり使われなくなったりした道具、たとえばほうき、火かき棒、すりこぎ、唐傘などに少女の血を塗って逆さに立てるとトッケビに変身するといわれます。

赤い色を嫌うため小豆（あずき）、血などはトッケビを追い払うとされ、冬至には小豆粥を食べる風習もあります。

いたずら好きのお化け

いたずら好きで、人をからかったり旅人を転ばせて通さないなど困らせたりしますが、一緒に遊びたがります。頭はあまり良くなく、バカ正直で融通性がなく、人間にうまく使われてしまうこともあります。

特に相撲（シルム＝格闘技）が好きで、人間に勝負を挑みます。好物の豚肉を買った村人に、相撲で勝ったほうが豚肉をもらう権利があると提案します。しかし漢字では「独脚鬼」と書くように1本脚のため、足掛けされると弱く、たいてい村人が勝ちます。お人よしの愛すべきお化けです。



原州 九龍寺
應真殿 隅瓦 トッケビ
亀龍寺



原州 ソッキョンサ
隅瓦 トッケビ

そばもちやマッコリ（酒）も好物、好色でもあり、歌や話が好きで、人間にとんち勝負を挑んだりします。

トッケビ棒（棍棒）か小槌か砧（きぬた）を持ち、魔法の杖のようにほしいものを何でも出せます。悪人をからかい、善人には恵みを与えます。福や長寿をもたらす不思議な力を持ち、貧者の空っぽの米びつに米を満たしてくれたりします。



原州 チョンウンサ 参道に立つ
トッケビ石像。トッケビ棒を持つ。

トッケビガムトゥと呼ばれる帽子を持っていることがあり、それをかぶっているものを見えなくする力を持ちます。夜になると古井戸、凶家、城跡などに出てきて遊び、鶏が啼いたり鐘がなると消えます。

なお、2本足だという説もあり、見かけは人間と変わらず、出会ったときはトッケビと気づかないこともあるといひます。

日本の鬼のように恐ろしく残虐なものではなく、ちょっと怖い、ちょっと可愛く愛嬌もある「お化け」です。

（ウイキペディア、「東洋経済日報」
2010.10.15 広島大学崔古城名誉教授の随筆
などによる）

原州の郊外に新興宗教の家らしい屋敷がありました。広い庭の塀ぎわに20数メートルはあると思われる巨大な赤銅色の龍が2頭、向かい合っているのに驚かされました。が、それよりも興味深かったの

は、入口近くに立つ「煙突トッケビ」でした。金会長の話では、オンドルの煙突から悪いものが入り込むのを防ぐため、煙突にトッケビの顔を書くなどしてにらみをきかせてもらう風習があるといひます。



（上下とも）トッケビ煙突のモニュメント 原州で



金在煥・武陵博物館長の見解

帰国後、私のメールでの質問に答えて金在煥・武陵博物館長は「トッケビ（ドッケビ）とは」と題して大要、次のような文を寄せてくれました。仲立ちをして翻訳もしてくれたのは、原州市公立原州小学校日本語教師の金桂華（キムケーハ）さんです。



韓国で伝えられている昔話の中で、ドッケビは頭の中央に角が1本または2本突き出ている、怖い顔をしている。山の奥に住み、獣の毛皮の服を着ている。手には凸

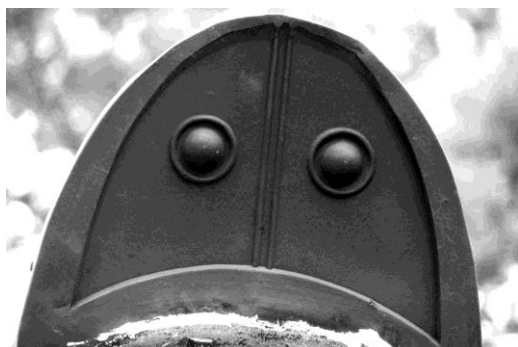
凹形の打出の棒を握っている。打出の棒（打出の小槌）は人をひどい目にあわせる時や苦しめる時にも使うが、利する時にも使う。ドッケビは人に害を及ぼすより、助けてくれたり、保護してくれたりする。

だからドッケビは私たちを保護してくれるものとしてなじまれ、親近感をもたれている。

人々は、悪い気運が自分の家の中に吸い込まれてきて悪いことが生じると信じていて、それらから私たちを守ってくれる力を持つものの一つがドッケビだと信じている。力の弱い人が誰かを頼りたがる気持ちで、実際に見たことのないドッケビの形を作って、家の中や屋根の上に設置して厄運を食い止めようとした。

△

韓国の寺院にはよく「山神殿」という小さな目の建物がありますが、金館長は「寺に行ったら真っ先にお参りすべきところです」といいます。清平寺の山神殿の望瓦のデザインは「鬼目」で、これは「トッケビの目を表わしている」と教わりました。



春川・清平寺 山神殿 隅瓦 鬼目（トッケビの目）



原州・ソッキョンサ 隅瓦 鬼目（トッケビの目）



ヨンシユ市 神勒寺 寂黙室
オンドル煙突に鬼目（トッケビの目）

日本が持ち込んだイメージも

韓国「中央日報」（2007.6.30）などの報道では、韓国の小学校の教科書に載ったトッケビの絵「原始人の服装に角が生え、金棒をもっている姿」は日本の鬼だという学会の指摘を受け、政府教育部が審議確認に入りました。日帝時代に伝えられた日本の鬼を描写したものだということです。「桃太郎の鬼にそっくりだ」という声もあり、日本統治時代に朝鮮の小学校教科書に載せられたものが、韓国古来の童話のように思い込まれたのだといえます。一部の学者は、韓国のトッケビは「角がなく、体が大きく、毛がぼうぼうと生え、傘をかぶることもある」といいます。

ソウルの梨花女子大文学研究院では、日本の鬼が変形させた部分を取り除き韓国固有のトッケビを復元するプロジェクトを進めています。

日本が歪めた民族文化の修復です。研究の成果が期待されます。同時に、日本が犯した侵略の誤りを謝罪しなければなりません。

（つづく）